

# 鳥獣センター通信

## 鳥獣被害対策マイスター認定 研修が開催される

県では、平成22年度から鳥獣被害対策マイスター認定研修を開催しています。

これは、県内各地域で鳥獣被害対策を効果的に実施するため、野生鳥獣の生態や正しい被害防止対策に関する知識を身につけるもので、今年度は7月から10月にかけて3回延べ4日間実施しました。そして、すべての研修を受講され、最終試験に合格された方を、鳥獣被害対策マイスターとして認定しています。

受講者は市町村をはじめ農協、森林組合等の関係団体及び地域住民の方々となっております。座学研修では、鳥獣被害対策マ

イスターの役割や鳥獣被害対策の基礎知識、各害獣の行動特性と対策等について学習しました。

現地研修では、まず野生鳥獣追いや払い器具の作成や試射を行い、次に電気柵や防護柵を実際に設置してもらいながら、設置のポイント等を習得しました。

また、実際に集落の現場を点検し、その結果を班に分かれて協議した後、その診断結果を発表してもらいなど、即実践につながる研修となりました。

なお、認定された方々については、12月中に認定書を発行する予定です。



## 冬を迎えるにあたり・・・

12月を迎え、寒さも一段と厳しくなってきました。

私たち人間も、少しずつ冬支度を始めておりますが、野生動物たちも同じです。

奥山では餌が少しずつ減ってきており、餌の豊富な里山、集落が狙われてきます。

この時期に、野生動物たちへの餌付けを進めていくと、個体数の増加を助長することになりますので十分注意してください。

### ◆注意点◆

- ① 水田のひこばえは、食べられないようすきこんでしまうか電気柵を継続して設置するようにしましょう。
- ② 畑や家の近くに野菜などの残渣や残飯等を放置しないようにしましょう。
- ③ 集落等で野生動物を見かけたら、器具等を活用し協力して追い払うようにしましょう。

被害対策に関する問合せ

西臼杵支庁及び各農林振興局  
各市町村・各農協・各森林組合等

# これならできる鳥獣被害対策（第2回）

## ～「無自覚の餌付け」とは～

これまで県内各地で捕獲や侵入防止柵の設置等が行われてきたにも関わらず、ここ数年、被害は増加傾向にあります。

その理由のひとつに、被害が増えた一番の原因を知らずに対策を行ってきたことがあげられます。

そこで前号では、その原因は「集落が野生動物の餌付けに成功した」だけであるとお伝えしました。

しかし、餌付けに成功したと言われてもピンと来ず、「誰も野生動物に餌付けなんてしてないよ」と答える方が多いのではと思います。しかし、皆さんは知らず知らずのうちに餌を与えてしまっているのです。

そこで今回はそのような「無自覚の餌付け」について紹介します。

私たち人間は一体どのような無自覚の餌付けを行っているのでしょうか。

まず、野生動物が食べる餌には2種類あります。

「第1の餌」は人が動物に食べられたら怒る餌で、人間が丹精込めて育てた水稲、野菜、果樹等です。

「第2の餌」は人が動物に食べられても怒らない餌で、稲刈り後のヒコバエや規格外などのため出荷せず

に放置された野菜等です。

「第1の餌」は当然食べられたくないので、皆さんはそれぞれネットや電気柵を張るなど野生動物に侵入されないようにしますが、時々侵入され被害を受けて腹立たしい思いをされた方も多いと思います。これを「被害」と言ってますね。

しかし問題なのは「第2の餌」です。これはいくら野生動物に食べられても痛くもかゆくもありません。だから何も対策はせず、結果的に無意識のうちに野生動物に餌として与えてしまっているのです。

野生動物は「第1の餌」も「第2の餌」も区別はできません。ただ食べたい方を食べるだけです。どちらの餌も餌付けをしていることに変わりありません。では、最終的に餌付けはどのようにして進むのでしょうか？

それは、野生動物が人慣れを学習（「無自覚の人慣れ学習」）することにより進むのです。

今回は「無自覚の人慣れ学習」についてお話していきます（次号へ続く）。



シカによる食害を受けたひこばえ



稲刈り後のひこばえ



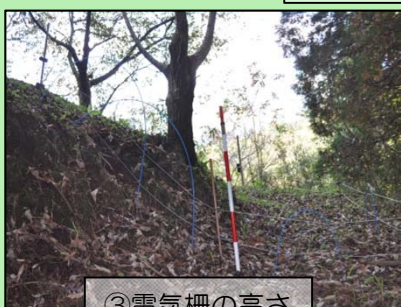
畑に放置された野菜

# 侵入防止柵の知恵袋（第2回）

## ～正しい方法で守りましょう～



①トタン柵の隙間



③電気柵の高さ



②裾部の隙間

- ① どんな柵でも、間違った方法で設置しては効果がありません。正しい方法で設置する際の注意点をまとめてみました。
- ② トタン柵  
野生動物は柵沿いに歩き、隙間を狙うので、写真のような縦の隙間は作らない。
- ③ 電気柵  
電線の高さはイノシシ等の鼻が直接触れるよう、一段目は地面から20cm、それ以降も20cm毎に設置する。